

3 期目に入ったウルグアイ FA 政権 —2014 年総選挙の総括と新政権の課題—

中沢 知史

はじめに

2014 年 11 月 30 日深夜、首都モンテビデオの目抜き通りである 7 月 18 日大通りは、与党拡大戦線（Frente Amplio・以下 FA）タバレ・バスケス候補の大統領選挙当選を祝う人々の歓喜に湧いていた。お祭り騒ぎの喧噪に身を置いた筆者は、求められるまま若者たちの笑顔を写真に収めた。



FA の勝利を祝う支持者・2014 年 11 月 30 日モンテビデオにて筆者撮影

南米南部、日本とは地球の正反対に位置するウルグアイ東方共和国（以下ウルグアイ）では、04 年に史上初めて左派連合 FA が総選挙で勝利、左派政権が誕生した。FA 政権はバスケス政権（任期 05～10 年）、ムヒカ政権（10～15 年）、そして再度バスケス政権（15～20 年）へと引き継がれ、3 期 15 年にわたることとなった。

バスケス新政権は何を目指し、どこへ向かうか。本稿執筆時点現在、新政権は発足直後であり、政策は実施の途についたばかりである。そこで本稿ではまず、14 年総選挙を振り返り FA が勝利した要因を述べる。次に、バスケス政権が前政権から引き継いだ諸課題を内政、外交、経済政策、大規模開発計画の観点から整理する。以上をもって、ウルグアイ新政権の前途を見通すこととしたい。

2014 年総選挙の総括

ウルグアイでは憲法で大統領の連続再選を禁止して

いる。しかし、いったん職を退き再び大統領を務めることは可能である。1 度目の大統領任期末期、バスケス大統領の支持率は 80% に達し¹、再度立候補すれば当選は確実と見なされていた。現在から振り返れば妥当な結果と言えよう。しかしながら、14 年総選挙には若干の波乱もあった。

（1）党内予備選挙

6 月 1 日、各党の統一大統領候補を選出する予備選挙が行われた。FA では事前の予測通りバスケス候補が、また野党コロラド党ではボルダベリー候補がそれぞれ圧勝したが、国民党だけは予測を裏切る結果となった。ラカジェ元大統領の息子で若干 41 歳のラカジェ・ポウ候補が同党の実力者ララニャガ候補に約 9 ポイント² の差をつけて逆転勝利したのである。

高齢者中心のウルグアイ政界にとって「若さ」「変革」「積極性」といった標語、分かりやすいロゴ、洗練されたテーマソング、そしてソーシャルメディアを有効利用した派手なキャンペーンは大きな驚きと衝撃であった。

（2）第一回投票から決選投票まで

ラカジェ・ポウ候補率いる国民党が躍進するなか、FA への支持率は低迷し、8 月には 39%³ と最低の水準になった。「バスケス再選に黄色信号」の見出しが紙面に現れ始めた。

10 月 26 日、投票日。この日、有権者は次期大統領・副大統領（上院議長を兼任）と国会議員を同時に選出する。結果はバスケス候補が 47.8% の得票で 1 位、ラカジェ・ポウ候補が 30.9% で 2 位となった。

第一回投票ではいずれの候補も有効票の 50% に届かず、上位 2 名の決選投票となったが、この時点でほぼ勝敗は決していた。バスケス候補とラカジェ・ポウ候補の間には既に約 17 ポイントの得票差がついており、コロラド党以下全野党の票がすべてラカジェ・ポウ候

補に入らない限り同候補の逆転勝利はあり得ない情勢であった⁴。

11月30日、決選投票の結果はバスケス候補53.6%、ラカジェ・ポウ候補41.1%と、バスケス候補が10ポイント超の差で勝利、20世紀以降のウルグアイ政治史上3人目の再選大統領となった⁵。また同時にセンディック候補が副大統領に当選、FAは最終的に上院16議席、下院50議席を獲得、議会で単独過半数を制した。

(3) FA勝利の要因

文民・軍事独裁政権期、経済危機の時代を経て誕生した左派FA政権の10年は、持続的な経済成長の時代でもあった。この間ウルグアイでは好調な輸出に支えられた所得の上昇、社会政策の成功による貧困削減、所得格差の縮減を見た(下表参照)。治安悪化やインフレによる物価上昇などに不満を抱きつつも、生活の向上を日々実感している有権者にとって、あえて政権交替を望む理由はなかったと推測される。

加えて、野党が選挙戦略を誤ったこともFAに有利に作用した。国民党とコロラド党の伝統二政党は選挙協力に失敗し票を分散させる結果となった。また、当初大きな注目を集めた国民党のキャンペーン手法も、ラカジェ・ポウ候補が失言や人選ミスを繰り返すにつれむしろ逆効果になったと言えよう。

バスケス新政権の政策と課題

「我々はアルティガスの中にこそ、ウルグアイ人のアイデンティティを成す諸原則と価値を見いださなければならない。自由、平等、正義、民主主義、決断、民族自決、啓蒙、連帯、友愛、統合、他者の尊重と他者への寛容さ。政権の基礎を成すのはこうした原則と価値である。」

2015年3月1日、議会での就任演説でバスケス大統領は繰り返し独立の英雄ホセ・アルティガス(1764～1850)の名を挙げた。アメリカ大陸の独立と解放に尽力した歴史的英雄たちの同時代人として、国民国家ウルグアイのアイデンティティの源としてアルティガスを謳い上げる大統領は、さながら国民全体の教師として振る舞っているかに見えた。



議会で就任演説を行うバスケス大統領・2015年3月1日・出典：大統領府

表 ウルグアイの県別平均所得・主要社会開発指標の推移：2006年～2013年

県名	平均所得 (米ドル)		貧困率 (%)		ジニ係数		失業率 (%)		乳幼児死亡率 (人/千人当たり)	
	2006	2013	2006	2013	2006	2013	2006	2013	2006	2013
アルティガス	6,295	10,560	48.9	18.3	0.400	0.361	14.9	7.0	12.3	8.8
カネロネス	9,352	14,387	28.3	8.3	0.414	0.348	12.1	7.4	11.8	8.7
セロ・ラルゴ	7,447	10,292	42.3	12.0	0.412	0.307	11.9	4.5	18.7	10.2
コロニア	9,435	16,297	23.3	1.8	0.376	0.300	7.9	3.5	11.7	7.3
ドゥラスノ	7,928	12,233	36.6	11.4	0.405	0.356	10.9	9.5	7.0	6.4
フロレス	9,024	14,722	27.5	5.7	0.386	0.333	6.9	5.6	12.5	6.1
フロリダ	8,508	14,121	26.9	7.5	0.369	0.354	8.5	4.7	11.0	6.8
ラバジェハ	8,601	14,349	30.2	5.6	0.384	0.304	10.1	5.2	11.2	8.4
マルドナド	11,143	16,322	19.3	3.2	0.391	0.314	11.1	4.9	11.0	5.0
モンテビデオ	14,528	20,034	32.9	15.7	0.449	0.393	10.5	6.5	12.0	7.3
バイサンドウ	8,244	13,643	35.2	8.4	0.406	0.358	11.3	6.4	10.4	8.4
リオ・ネグロ	8,608	13,171	30.6	11.7	0.391	0.362	11.9	8.5	9.5	10.2
リベラ	6,968	10,964	44.0	18.5	0.403	0.376	10.8	5.7	14.6	10.7
ロチャ	8,129	12,839	34.4	9.6	0.402	0.343	9.3	7.8	10.6	8.1
サルト	8,323	12,825	39.4	9.7	0.454	0.367	11.0	7.9	12.7	10.6
サン・ホセ	8,310	13,700	28.5	6.3	0.363	0.314	8.4	6.0	9.9	7.3
ソリアノ	8,809	14,366	32.6	6.1	0.424	0.334	10.2	4.5	11.0	9.2
タクアレンボ	7,466	11,375	40.4	12.6	0.415	0.339	10.1	7.8	8.1	6.7
トレインタ・イ・トレス	7,719	12,714	38.2	7.5	0.398	0.328	13.1	7.5	18.0	5.3
全 国	11,047	16,220	32.5	11.5	0.455	0.384	10.8	6.5	11.8	9.0

出典：Ministerio de Desarrollo Social, *Revisión de Indicadores Básicos de Desarrollo Social 2006-2013* (社会開発省、2014年9月) を元に筆者作成

(1) 内政

バスケス政権が前政権から引き継いだ政策課題は数多い。中でも、教育と福祉の充実が重要な宿題であろう。ムヒカ前大統領は2010年の就任演説で教育を最優先課題の一つに挙げたものの、中等教育における留年、中退率は5年を経た現在も高いままである⁶。カリキュラム改革、教職員の待遇改善、学習環境の整備が急務であろう。またウルグアイは人口構成上高齢化の段階にあり、60歳以上の高齢者が全人口の18.7%を占めている⁷。高齢化にともない、社会福祉の充実及び労働力人口の確保が要請されるが、FAが公約として創設を謳った包括的弱者ケア制度の行方が注目される。

(2) 外交

ブラジル・アルゼンチンという地域大国の狭間にある小国という地政学的位置関係をふまえ、メルコスールを通じた地域統合を促進する基本路線に変更はない。しかし、近隣大国の貿易政策に翻弄され、メルコスール・EU自由貿易協定交渉も一向に進展を見せない現状に対する不満も国内に蓄積されている。新政権は、地域のハブとしての機能を強化する目的で、メルコスールに留まりつつ加盟国単独で域外との通商交渉を可能とするルール変更を求めていくと推測される。

またこの間ウルグアイは、シリア難民及びグアンタナモ収容者受け入れ、中絶、同性婚、大麻の合法化、ムヒカ前大統領のスピーチ等で国際的威信を高めてきた。こうした成果を外交資源としてどこまで活かせるか。米州機構(OAS)次期事務総長に選出されたアルマグロ前外相⁸の動向も含め注目すべきであろう。

(3) 経済政策

新政権では、アストリ経済財務大臣をはじめ、FA政権下の経済政策を担ってきた重要人物が再度要職に就いた。よって、次の5年間もFAの経済政策方針に大きな変更はなく、引き続き投資誘致、経済開放政策が進められると予想される。

また、新政権が早急に取り組むべき課題として、経済の動脈となるインフラ整備が挙げられる。ウルグアイは国土面積の狭さと平坦な地形により道路網密度は高いものの、道路の質は最近10年間の経済成長に見合わない水準であり、水路及び海路との接続性も改善の余地がある。

(4) 大規模開発計画

ムヒカ前大統領は、鉄鉱山開発及び同鉱山の積み出し港としての深水港建設事業を熱心に推進してきた。しかしながら、鉱山開発に関する環境リスク評価や事業実施企業との交渉が進まず、2015年2月、前大統領の任期最終月、鉄鉱山開発の実施企業と政府との契約締結期限を2016年まで延長する法律が可決された。また同企業は計画を縮小し深水港を使用しないことを決めた。新政権には深水港計画の見直し又は計画中止の可能性も残されている。

おわりに

以上本稿では、今年の総選挙からバスケス政権発足直後までを扱ってきた。この先、2015年5月10日には地方選挙が控えている。野党の地盤である内陸諸県でどこまで支持を伸ばせるかが、3期目に入ったFAの盤石さを占う試金石となろう。

有権者からの信頼と期待に新政権がどう応えるか、今後も見守っていきたい。

(本稿の内容は筆者の見解を表したものであり、所属先の見解を代表するものではない。)

(なかざわ ともふみ 在ウルグアイ日本国大使館専門調査員)

1 Cifra社の調査による。

2 選挙裁判所公表の開票結果に基づく。以下同様。

3 Cifra社の調査による。

4 事前の世論調査結果が実際の得票率とやや乖離した原因は、在外投票制度が存在しないため、在外有権者(大多数がFA支持者と言われる)の票数を正確に把握できなかったことに求められよう。カルロス・デマシ共和国大学教授によれば、近隣国居住の在外有権者にとって投票日は帰郷を兼ねた家族行事であり、その数は万の単位に達する(内田みどり和歌山大学教授及び筆者によるインタビュー、2014年9月9日)。

5 1人目はホセ・バジェ・イ・オルドニェス(1903～07年、1911～15年)、2人目はフリオ・マリア・サンギネッティ(1985～90年、1995～2000年)。

6 例えば、日本の高等学校第二学年に相当する段階での留年率、中退率はそれぞれ21.6%、18.7%である(2013年時点、教育文化省発表)

7 2011年時点。社会開発省の発表による。

8 ウルグアイ国内では殆ど報じられなかったが、14年9月の国連「初の先住民に関する世界会議」で、ウルグアイの国家成立期に生じた先住民絶滅について、国家の責任を認め公式に謝罪する旨演説したことは注目に値する。